

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 10287339
PUBLICATION DATE : 27-10-98

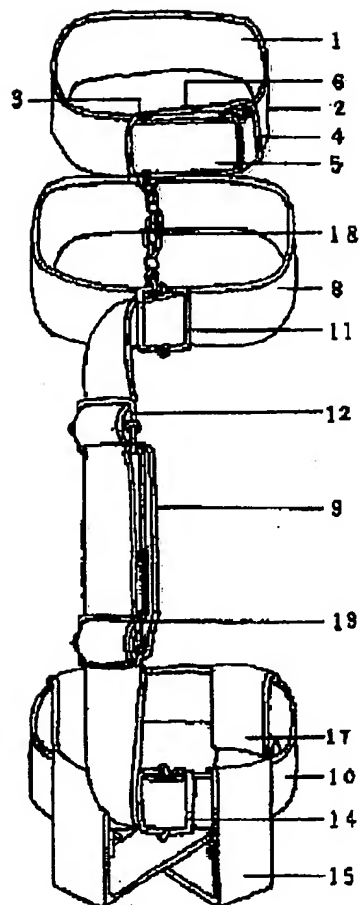
APPLICATION DATE : 14-04-97
APPLICATION NUMBER : 09130226

APPLICANT : IGARASHI SHUZO;

INVENTOR : IGARASHI SHUZO;

INT.CL. : B65D 23/06 B65D 23/00 B65D 25/20
B65D 25/22

TITLE : BELT FOR ABSORBING DRIPPING
LIQUID FROM CONTAINER, AND BELT
HANDLE



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a belt for absorbing dripping liquid from a container, and a belt handle making it easy to hold the container and to pour the liquid and further making no obstacle at housing it, and whose fixing parts do not contact the container and which can cope with the shape and size of the container.

SOLUTION: In this absorbing belt, a size-variable part 6 is provided in an absorptive cloth so that two parts 3, 4 do not contact the container. And a flat rubber 5 is put into the absorbing belt to form a circular belt. And a size-variable upper fixing part 8, a handle 9, a fixing part 10 at the bottom are provided on a flap belt so that four parts 11, 12, 13, 14 do not contact the container, in the belt handle. And further, a sliding cross belt 15 is provided at the fixing part 10 of the bottom.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-287339

(43)公開日 平成10年(1998)10月27日

(51)Int.Cl.⁸

識別記号

F I

B 6 5 D 23/06
23/00
25/20
25/22

B 6 5 D 23/06
23/00
25/20
25/22

P
J
C

審査請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平9-130226

(22)出願日 平成9年(1997)4月14日

(71)出願人 397006162

五十嵐 修三

茨城県水戸市城東3丁目1番4号

(72)発明者 五十嵐 修三

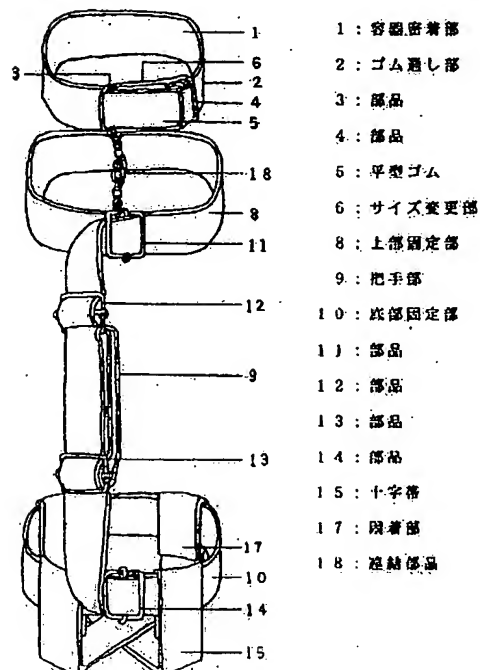
茨城県水戸市城東3丁目1番4号

(54)【発明の名称】 容器の液垂れ吸収帯並びに帯把手

(57)【要約】

【課題】 容器の液垂れを吸収する吸収帯と、容器を持ち易く、液体を注ぎ易く、収納時に邪魔にならない帯把手を、固定用部品が容器に触れない、容器の形状やサイズに対応出来ることを目的とする構成で提供する。

【解決手段】 吸収帯は、吸収力のある布に、二つの部品3、4が容器に触れない構成でサイズ変更部6を設け、平型ゴム5を通して、環状にする。帯把手は、一本の平型帯に、四つの部品11、12、13、14が容器に触れない構成で、サイズ変更が出来る上部固定部8、把手部9、底部固定部10を設け、底部固定部10にスライドする十字帯15を設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 吸収力のある布に、固定した部品(3)と可動する部品(4)を容器に触れない構成にしてなるサイズ変更部(6)を設け、ゴム通し部(2)に平型ゴム(5)を通して、環状にした容器の液垂れ吸収帯。

【請求項2】 一本の平型帯に、上部固定部(8)に要する部品(11)と、把手部(9)に要する部品(12、13)と、底部固定部(10)に要する部品(14)を容器に触れない構成で設け、底部固定部(10)にスライドする十字帯(15)を設けた帯把手。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、液体入り容器の液垂れを吸収する為の吸収帯と、容器を持ち易く液体を注ぎ易くする為の帯状の帯把手に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の液垂れ防止具は、容器への貼りつけ、サイズ限定、丸首専用等があり、把手は、容器限定、丸首専用、固定具使用プラスチックバンド等の形式がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】近年の容器形状の多様化、或いは容器の大型化により、従来の液垂れ防止具は、瓶口下部へ取り付け難くコップ等へも注ぎ難い。従来の把手は、容器の瓶口から中腹部への取り付けの為、持ち上げには良いが注ぎ難く、冷蔵庫等への収納に不便であり、また、把手固定具を締付ける為、ガラス容器等の破損もあり、プラスチックバンド形式は手に食込み、固定具が外れ易い等の問題がある。把手においては、容器を起てた時、横にした時、液体の容量等で重心の位置が異なる為、持ち上げる時と注ぐ時の把手の位置は変えなければならない。依って、容器の上部から底部の位置にかけて取り付けの方が好ましい。しかし、それだけ長い把手では収納に不便であり、邪魔でもある。

【0004】

【課題を解決するための手段】吸収帯は、垂れた液体を吸収する為の布と、容器への密着度を増す為の平型ゴムと、サイズ変更を可能にする為の部品を組合せ、環状の吸収帯にする。帯把手は容器の形状やサイズに対応出来、収納時に邪魔にならず、持ち易いことを考慮した繊維質の平型帯と、サイズ変更や把手部の調節に欠かせない部品を組合せて帯状の把手にする。また、吸収帯と帯把手は、装着時の締付けによるガラス容器の破損を考慮して、部品が直接容器に触れないように工夫する。

【0005】

【発明の実施の形態】発明の実施の形態を実施例にもとづき、図面を参照して説明する。図1に示す吸収帯と帯把手についての作製行程であるが、吸収帯は、図2の実施例をもとに図3の実施例を参照しながら説明する。

(ア) 吸収力のある布を図3Aに示す容器密着部1とゴ

ム通し部2の形状にして、部品固着部位7と部品3を固着する。

(イ) ゴム通し部2と容器密着部1を一部固着し、筒状のゴム通しを作る。

(ウ) 部品3が固着されてない一端から部品4を通す。

(エ) 上記行程からなる図3Bの部品3に別の一端を通し環状にする。

(オ) 部品4と別の一端を固着し、平型ゴム5を上記イからなる筒状のゴム通しに通し、環状に連結し、図2に示す吸収帯にする。

【0006】 帯把手は、図4、5の実施例を参照しながら説明する。

(カ) 丈夫な繊維質の平型帯の一端を部品11の中心bに固着し、別の一端を部品11の間aから間cに通し、環状にして、上部固定部8にする。

(キ) 次に部品12の間aから間c、部品13の間cから間aに通し、再度部品12の間c、部品13の間aから間cに通して、把手部9にする。

(ク) 次に部品14の間aから間cに通し、環状にして、中心bに固着し、底部固定部10にする。

(ケ) 上記行程からなる帯把手の底部固定部10に、交差点16が固着された十字帯15の固着部17を固着して、図5Bに示すように底部固定部10と十字帯15の接点4箇所が固着されないスライド式にする。

(コ) 以上で図4に示す帯把手になるが、図1に示す帯把手との比較では、上部固定部8は平面図、把手部9は右側面図、底部固定部10は底面図となる。

【0007】 使用する部品の形状は、図6に示すように吸収帯使用の部品3、4は、四角型fが好ましいが、部品4は半月型iでも良い。帯把手使用の部品11、12、13、14は、中心可動型gがスライドし易く好ましいが、中心固定型jでも良い。連結部品18はフック式hが好ましいがクリップkでも良い。

【0008】 使用する材質の指定はないが、吸収帯の吸収力のある布は、洗車後の水分拭き取り用布が好ましいと思われ、平型ゴム5は、裁縫に使用する布製が好ましく、部品3、4は合成樹脂か金属類が好ましい。帯把手に使用する部品11、12、13、14は合成樹脂でも良いが、耐久性を考慮すれば金属類が好ましく、図6gの形状を使用する場合も金属類が好ましく、繊維質の平型帯は、安全ベルト等に使用されている、アクリル製の平型帯が好ましいと思われる。

【0009】 吸収帯と帯把手の容器への着脱方法であるが、吸収帯については、輪ゴムを嵌める要領で容器に装着し、図2に示す容器に面しない部位eを指で摘んで、部品4をスライドさせる。これにより、サイズ変更部6が部品3をスライドしてサイズ変更が出来る。外すときは、サイズ変更部6の間dに指を掛け平型ゴム5と一緒に引っ張れば吸収帯のサイズが広がり容易に外せる。帯把手は、底部固定部10と十字帯15を容器底部

に装着し、上部固定部8を容器の任意の場所に装着し、部品11、14により容器のサイズに合わせる。次に部品13を押えながら把手部9a9bを引き、部品12をスライドさせ把手部の長さ調節をする。外すときは、部品12をスライドさせて把手を緩めれば容易である。そして吸収帯と帯把手の装着後、連結部品18により吸収帯と帯把手を連結する。

【0010】 吸収帯と帯把手のサイズであるが、吸収帯は、図3に示す吸収力のある布のゴム通し部2の長さにより部品3を考慮しない最小サイズとなり、サイズ変更部6の長さにより部品4を固着する部位の長さ2を考慮しない最大サイズロとなる。帯把手は平型帯の長さとして十字帯15のサイズによる。

【0011】 図7に示す使用例では、容器持ち上げ時図7Aは把手部9の上部、コップ等への注入時図7Bは把手部9の下部を利用する。

【0012】

【発明の効果】本発明は、以上の説明による構成の為、重心移動を考慮した帯把手の取り付け位置と吸収帯の効果で、重い容器でも容易に持ち上げ、片手で注ぐことが出来、更に吸収帯により液垂れを吸収出来る。その為、手に障害のある人、握力の弱くなった高齢者、非力な婦人達が使用することで、容器の手滑り落下、手の震えによる液体の注ぎ難さと液零し、液垂れ等の不便な点を補える。

【0013】 連結部品は、帯把手と吸収帯を連結することで、例えば括れ等の無い容器では、帯把手の上部固定部が容器下部へずれる弊害を補え、容器の形状や大き

さによっては、外すことで単独利用が出来る。又、容器形状により連結部品の延長が必要な場合は、クリップ図6k等を使用すれば良い。

【0014】 吸収帯は、洗濯可能で、極端な縦のくぼみがある部分以外は使用出来、部品が容器に触れない安全性もあり、平型ゴムは取り替えが可能で、吸収帯の形状維持効果があり、容器の形状やサイズに対応出来る。

【0015】 帯把手は、十字帯を除く平型帯の一本化により強度を増し、把手使用時以外は容器の締付けがなく、部品が容器に触れない安全性もあり、容器の形状やサイズに対応出来、収納時にも邪魔にならない。又、十字帯の効果で、底部固定部が容器上部へずれることがない。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の吸収帯と帯把手を示す、斜視図。

【図2】 吸収帯の構成を示す、平面図。

【図3】 吸収帯の作製過程を示す、平面図。

【図4】 帯把手の構成を示す、図面。

【図5】 (A) 帯把手の構成を説明する為に要した、部品の横断面図。

(B) 十字帯の構成を説明する為に要した、縦断面図。

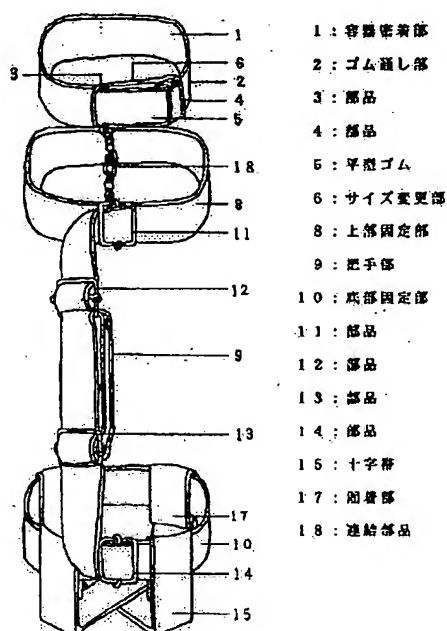
【図6】 使用部品の形状を示した、正面図。

【図7】 本発明の使用例を略式で示した、正面図。

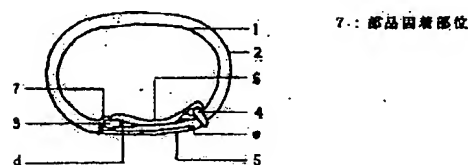
【符号の説明】

2 ゴム通し部、 3、4 部品、 5 平型ゴム、
6 サイズ変更部
8 上部固定部、 9 把手部、 10 底部固定部、
11、12、13、14 部品、 15 十字帯

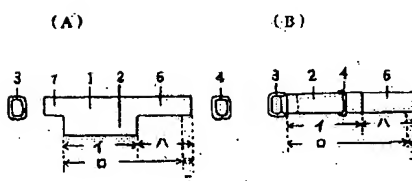
【図1】



【図2】



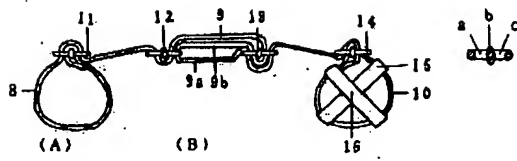
【図3】



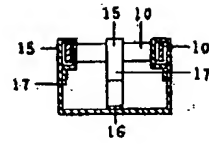
(4)

特開平10-287339

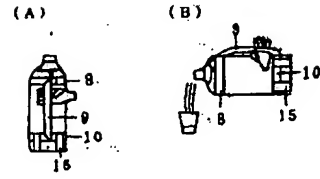
【図4】



【図5】



【図7】



【図6】

